

## 1 学校教育目標

人権尊重の精神を基盤とし、規範意識と豊かな個性、創造力をもって社会に貢献しようとする精神を培い、心身ともに健やかで夢や希望を実現する自立した人を育てる教育を推進する。

- ・進んで学ぶ生徒
- ・思いやりのある生徒
- ・根気強くやりぬく生徒

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力(人間力)を育成する学校</li> <li>・学ぶ力、確かな学力を身に付けさせ、心豊かな生徒を育てる学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで学ぶ生徒</li> <li>・思いやりのある生徒</li> <li>・根気強くやりぬく生徒</li> <li>・自ら学び、ひとから学ぶ。豊かな人間関係を築き、自分の個性や特技を伸ばす。</li> <li>・互いに支え、協力し、思いや考えを共有する。自分と等しくひとを大切にする。</li> <li>・努力することの価値を認め、自分を信じて向かい続ける。</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を大切にし、自ら学び続ける教師</li> <li>・保護者や地域に信頼される教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校の現状】

- ・授業は比較的落ち着いた雰囲気であり、生徒は真面目に授業に向かっている。家庭学習の習慣を身につけることができず学力が定着しにくい。
- ・保護者や地域は学校教育に理解を示し、協力的である。
- ・英語において、習熟度別少人数指導による授業展開を実施し、学力の定着と向上に取り組んだ。

### 【生徒について】

#### <成果>

- ・規範意識を高くもって学校生活に積極的に関わっており、生徒会活動、委員会活動、部活動に積極的に取り組んでいる。
- ・「立志の時間」(総合的な学習の時間)での調査・研究・発表を通して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けた。

#### <課題>

- ・主体的に学習に取り組む意欲が低い生徒が多い。家庭で自ら学習する習慣が身につけておらず、学習内容を定着させられない生徒が多い。
- ・読書習慣のある生徒が少ない。読解力や想像力が十分に育っていない一因と考えられる。
- ・真面目ではあるが、目的意識や自ら解決しようという意欲が低く、大人の指示を待つ、指示に頼ろうとする傾向がある。

### 【教職員について】

#### <成果>

- ・新学習指導要領の実施に向けて「生徒の主体性を生かした授業改善」「生徒に考えさせる授業作り」「評価と指導の一体化」について研修を深めた。
- ・生活指導においては、校内支援委員会及び生活指導部会を基盤に支援と指導の両面から全教職員共通理解のもと、組織的に生徒の課題に対応した。

#### <課題>

- ・若手教員が半数を越え、経験の少なさを熱意で補っている状況である。
- ・ベテラン層や中堅層が少なく、意図的・計画的で組織的なOJTの実施、研修の運営など、授業改善のための教員の資質向上の取組に難しさがある。

### 【地域、保護者について】

#### <成果>

- ・開かれた学校づくり協議会やPTAが中心となって、花壇の整備等、学校環境整備がなされた。

#### <課題>

- ・学力向上のためには自ら学ぶ意欲が重要であることを家庭と共有する。家庭学習の定着に関して、家庭との協力体制を構築し、推進していく。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生きる力を育む教育	○	○	○	○	○
3	思いやりの心や豊かな心を育む教育	○	○	○	○	○

#### 5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン									
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●			
基礎学力・学ぶ力の向上 ・生徒の主体性や思考力を育成する授業づくり（栗島中授業スタンダード）を確立し推進する ・目指す生徒像の共有を基盤に、カリキュラムマネジメントの視点からの全教育活動をとおして生徒の学ぶ力を育成する		<ul style="list-style-type: none"> <li>目標通過率：50%</li> <li>正答率：当初 50%</li> <li>確認テスト（2月）55%</li> <li>独自に設定する生徒への意識調査を年3回実施し、肯定的評価を年間通して向上させる</li> <li>教員向けアンケートを実施し、年間を通して取組状況と成果値を向上させる</li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>							
B 目標実現に向けた取組み											
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●		
1 継続	「考える授業」「問いをもつ授業」の実施	全学年 全教科	通年	生徒各自が授業のめあてと解決策を意識できるよう、主体的に考え対話的に考えを深める場面を設定する。授業の最後に各自が身につけたものを振り返ることができる力を目指し、学習調整力を育てる	生徒意識調査 教員向けアンケート 評価・評定の「主体的に学ぶ態度」	○最終調査の数値が当初の数値を5ポイント上回る ○中間調査の数値を指導改善に生かす	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>				

2 新規	「振り返りの時間」と「まとめ」の充実	全学年 全教科	通年	授業の最後に各自がこの時間で何が分かったか、何が分からなかったかを個人で振り返らせる。全体のまとめと個人の振り返りを通して学習調整力を育て、家庭での自主学習につなげる。	生徒意識調査 教員向けアンケート 評価・評定の「主体的に学ぶ態度」	○最終調査の数値が当初の数値を5ポイント上回る ○中間調査の数値を指導改善に生かす
3 継続	学力アップ (朝・放課後)	全学年 朝：読書 午後：国・数・英・社・理	毎日	年間計画に沿って読書習慣と基礎学力の定着を目的に、学習コンテストに向けた課題や、AIドリル活用などを通して、個に応じた課題に取り組ませる。	AIドリル活用数 学習コンテストの結果	○AIドリル活用数、月あたり300問 ○学習コンテストの目標値達成
4 継続	学習コンテスト	全学年 ・国語 ・数学 ・英語 ・社会 ・理科	実施日 3週間前より 放課後の学力アップ タイムを活用	各教科が、基礎知識の定着度の確認などコンテストの目的を定め、出題を吟味して実施する。 各教科で各生徒が自分の力に応じて目標点を定め、生徒自身に各自の目標点を設定させて取り組ませる。 採点を生徒各自が行い、自己の課題を見出させる。	漢字：7月 計算：12月 英語：10月 社会：1月 理科：2月  目標値を実施前に立てさせ プレテスト後に修正させる	○全生徒が根拠をもって目標値を立てられる。見とり方は教科が検討する ○各自が定める目標点に達する生徒が80%以上
5 継続	サマースクール	全学年 ・国語 ・数学 ・英語 ・社会 ・理科	夏休み 7日間	当該年度の前半期でのつまづきを解消できる力をつけるため、少人数指導のもと、学習への興味の喚起と、知る・分かる喜びを感じさせ、学習意欲の向上を図る。	事前、事後のアンケートで生徒自らの意欲や達成度の変化を見取る	○生徒自身が振り返り、学びたいものが学べた、自ら進んで取り組んだなど肯定的評価が90%

自己評価の際に記入

重点的な取組事項－２		生きる力を育む教育			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・生徒の主体性を生かした取組の充実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートにおいて、主体的な取組に関する問いに対して、肯定的評価を85%以上にする。</li> <li>・各取組についても評価する。</li> </ul>	<b>自己評価の際に記入</b>		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
主体的に考えて取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文、振り返り、生徒アンケートでの肯定的評価が全体で90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事ごとに生徒の実行委員会を組織し、運営等に主体的に取り組ませる。</li> <li>・生徒主体で生徒会朝礼、学校紹介、部活動体験などを企画・運営させ共有させる。</li> </ul>	<b>自己評価の際に記入</b>		
総合的な学習の時間（立志の時間）の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒への振り返りアンケート、作文での肯定的評価が95%、主体的取組が85%</li> <li>・保護者アンケートで立志に関する項目で肯定的評価が85%</li> <li>・教員向けアンケートを実施し評価する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人研究のポスターセッションで主体的な課題設定・解決、プレゼンテーション能力を育てる。</li> <li>・グループ発表を通して、対話的に課題解決をはかり、考えを深めさせる。</li> <li>・立志の時間で育てた能力を生かし、主体的に学習する態度を育てる。</li> </ul>			
進路指導、キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒への振り返りアンケート、作文での肯定的評価が95%、主体的取組が85%</li> <li>・教員向けアンケートを実施し評価する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験、上級学校調べ・学校訪問等を行い、将来の夢や希望を広げる。</li> <li>・東京都英語村 TGG (TOKYO GLOBAL GATEWAY) での体験活動を実施する。</li> <li>・食育、保健指導、歯科指導を行い、自らの健康に関する意識を高める。</li> </ul>			

重点的な取組事項－3		思いやりの心や豊かな心を育む教育			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重意識の向上 いじめの根絶・自己肯定感の伸長</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の感想文や人権に関するアンケートを実施し90%以上の生徒が人権意識を高めたと回答する。</li> <li>生徒アンケートにおいて、学校生活の満足度等の肯定的評価を90%以上にする。</li> </ul>	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権尊重意識の向上 (いじめの防止と根絶)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての生徒が人権課題を意識し、自分なりの考えをもっていることを生徒アンケートや作文から確認する。</li> <li>生徒の課題に組織的に対応し、解決の方向性を確認できている。 (校内支援委員会、生活指導委員会、学校生活アンケート等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活アンケート、いじめアンケート、SCや養護教諭、担任等の情報で生徒の課題をすばやくとらえ、組織的に対応する。</li> <li>校内支援委員会、生活指導委員会を週1回実施し、情報を共有し、早期に組織対応していく。また、SCやSSWとの情報交換を密にし、計画的な支援を行っていく。</li> <li>教育相談週間を設定し、全生徒と教員との面談を実施し、一人一人に寄り添った生徒指導を行っていく。</li> <li>特別支援学級と運動会、フライングディスク、ビーチボールバレーなど積極的な交流を行い、共生を通して人権感覚を身につける。</li> </ul>	自己評価の際に記入		

豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校・学年行事、道徳授業等の感想で、多くの生徒が思いやりの心や他者を認める感情が高まったことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員のローテーションによる道徳の授業を実施し、全教員で道徳に関わりをもち、計画的に道徳教育を推進していく。</li> <li>地域行事やPTA行事、ゆめはなプロジェクト（花壇づくり）などに多くの生徒が関わり、地域の一員としての自覚を培う。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
自己肯定感の伸長	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自己肯定感」及び「自己有用感」「自己効用感」の育成を目指した取組と生徒の実感に関するアンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育活動のあらゆる場面で「自分を知る（自己肯定感）」「やればできる（自己効用感）」「自分は役に立っている（自己有用感）」という感情を伸ばすことを指導目標の一つとする。</li> </ul>	

## 6 まとめ

自己評価の際に記入